

エコアクション21 環境経営レポート



(2023年1月～2023年12月)



発行：2024年2月6日



緑造園興業株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
(1) 事業所名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先	
(4) 事業内容	
(5) 事業の規模	
(6) 事業年度	
2. 認証・登録の対象範囲	
(1) 登録事業所	
(2) レポート対象期間及び発行日	
(3) 実施体制図	2
(4) 役割・責任・権限	
3. 環境経営方針	3
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画	5
6. 環境経営目標の実績	6
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに次年度の 環境経営目標及び環境経営計画	7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無	11
9. 代表者による全体評価と見直し・指示	12
10. 具体的取組内容	13

【取組の対象組織・活動の明確化】

取組の対象組織・活動

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

緑造園興業株式会社
代表取締役 植原成典

(2) 所在地

本 社	香川県高松市林町1073-3	TEL：087-869-4128
東讃営業所	香川県木田郡三木町井戸426	TEL：087-899-1128
さぬき営業所	香川県さぬき市長尾東160-2	TEL：0879-52-5340
資材置場	②香川県木田郡三木町井戸407-1	
	③香川県木田郡三木町井戸355-1	
	④香川県木田郡三木町井戸404-1、2、3	
	⑤香川県木田郡三木町井戸406-1、3、4	

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者	開発部 部長 新川孝雄	
担当者	総務部 山下美和	TEL：087-869-4128

(4) 事業内容

造園工事業	土木工事業	とび・土工工事業
石工事業	舗装工事業	水道施設工事業
産業廃棄物収集運搬業許可（自社工事物件のみ） （許可番号 03703131469・有効期限 2026年12月17日）		

(5) 事業の規模

売上高	4億7,362万円	
工事等の件数	589件	
従業員	49名（うちパート14名）	（2023年12月21日時点）

延べ面積

	本社	東讃営業所	さぬき営業所	資材置場-2
従業員	27名	21名	1名	無人
延べ床面積	20㎡	215㎡	13㎡	935㎡
	資材置場-3	資材置場-4	資材置場-5	
従業員	無人	無人	無人	
延べ床面積	843㎡	875㎡	318㎡	

(6) 事業年度

1月～12月

2. 認証・登録の対象範囲（全組織・全活動）

(1) 登録事業所

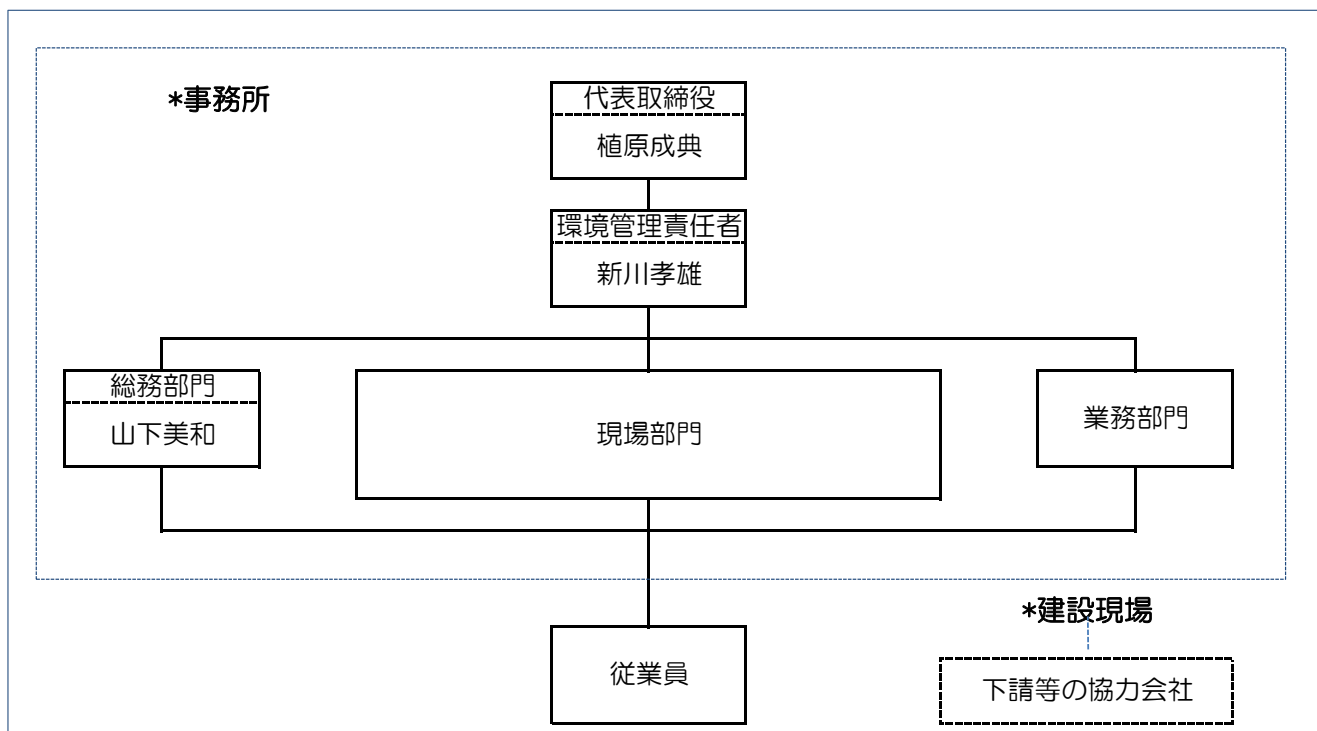
本 社	香川県高松市林町1073-3
東讃営業所	香川県木田郡三木町井戸426
さぬき営業所	香川県さぬき市長尾東160-2
資材置場	②香川県木田郡三木町井戸407-1
	③香川県木田郡三木町井戸355-1
	④香川県木田郡三木町井戸404-1、2、3
	⑤香川県木田郡三木町井戸406-1、3、4

関連事業所 無

(2) レポートの対象期間

2023年1月～2023年12月
発行日 2024年2月6日

(3) 実施体制図



(4) 役割・責任・権限

	役割・責任・権限
代表取締役	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 - 全従業員に対する教育・訓練の実施 - 環境経営目標、環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 緊急事態への対応マニュアルの承認 - 環境経営レポートを確認し、承認 - 環境関連法規等取りまとめ表の承認 - 取組に必要な手順書の承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成 - 環境経営目標、環境経営計画書を作成 - 環境経営の取組結果を代表者に報告 - 環境経営レポートの作成 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 緊急事態への対応マニュアル作成 - 取組に必要な手順書の作成
部門長	- 環境管理責任者の補佐 - 環境への負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 - 環境経営の実績集計 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的、積極的に環境経営活動へ参加

3. 環境経営方針

緑造園興業株式会社 環境経営方針

基本理念

当社は、緑のある美しい豊かな環境を受け継ぎ次代に残していくことを責務と考え、深刻化する地球温暖化問題に自覚を持ち、本業である造園土木業を通じて、環境保全活動に全社一丸となって自主的・積極的に取り組みます。

行動指針

1. 具体的に次の項目に取り組みます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 廃棄物排出量の削減
- ③ 水使用量の削減
- ④ 化学物質量の適正使用・管理と削減
- ⑤ 環境配慮への取組
- ⑥ 地域社会への貢献

これらについて環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. 環境経営方針は、全ての従業員に周知し、環境経営レポートを広く一般に公表します。

制定日：2014年7月22日
改訂日：2019年1月27日

代表取締役 植原 成典

4. 環境経営目標

【中・長期目的・目標】

目的	単位	上段：目標値 下段：基準年対比			
		※1 基準	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素の削減 ※2	kg-CO2	96,730	96,246 0.5%削減	95,763 1%削減	95,279 1.5%削減
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	438 0.5%削減	436 1%削減	433 1.5%削減
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100	100	100
水総使用量の削減	m3	276	273 1%削減	270 2%削減	268 3%削減
剪定・除草ゴミの再資源化 ※4	%	100	100	100	100
地域社会への貢献	回	12	12	12	12

※1 2020年～2022年実績の平均値を基準値とした。

※2 電力のCO2発生量については、四国電力の調整後排出係数0.527 (kg-CO2/kWh) を使用した。

(四国電力公表2021年度実績に基づく)

※3 産業廃棄物排出量については工事量の変化により、削減目標設定が困難のため、再資源化を目標とする。

当社が選択できる再資源化可能な委託先を100%選択する。

※4 剪定・除草ゴミは、リサイクル業者に委託し再資源化を行う。

化学物質の適正使用量の徹底

【短期目的・目標】

○取組期間 2023年1月 ～ 2023年12月

○全体

目的	単位	※1 基準	目標 2023年度
二酸化炭素の削減 ※2	kg-CO2	96,730	96,246
エネルギー使用量の削減	電気使用量	kWh	13,590
	ガソリン使用量	L	13,281
	軽油使用量	L	22,486
	灯油使用量	L	296
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	438
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100
水総使用量の削減	m3	276	273
剪定・除草ゴミの再資源化 (環境配慮の取組) ※4	%	100	100
地域社会への貢献	回	12	12

○事務所

目的	単位	※1 基準	目標 2023年度
電気使用量の削減	kWh	13,590	13,522
ガソリン使用量の削減	L	3,351	3,334
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	438
水総使用量の削減	m3	258	256
地域社会への貢献	回	12	12

○建設現場

目的	単位	※1 基準	目標 2023年度
ガソリン使用量の削減	L	9,930	9,881
軽油使用量の削減	L	22,486	22,374
灯油使用量の削減	L	296	295
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100
水総使用量の削減	m3	18	17
剪定・除草ゴミの再資源化 (環境配慮の取組) ※4	%	100	100

5. 環境経営計画

○事務所

○取組期間 2023年1月 ～ 2023年12月

		具体的な取組
二酸化炭素	電気使用量の削減	①緑のカーテンの実施 ②冷暖房使用時サーキュレーターや扇風機の併用 ③適正温度の維持
	ガソリン使用量の削減	①タイヤ空気圧の点検 ②余分な荷物を乗せない
廃棄物	一般廃棄物の削減	①両面印刷、裏紙再利用の徹底 ②ミสปリント防止のため事前確認の徹底 ③文書電子化
水使用量	節水	①雨水の利用 ②節水啓発ポスターの掲示
リサイクル	環境・社会貢献	①使用済みインクカートリッジの回収 ②ペットボトルキャップの回収 ③使用済み切手の回収
地域貢献	美化活動	①事務所周辺の清掃活動を実施

○現場

○取組期間 2023年1月 ～ 2023年12月

		具体的な取組
二酸化炭素	ガソリン・軽油の使用量の削減	①タイヤ空気圧の点検 ②重機使用時間短縮化の推進 ③車の乗り合わせ ④機材の電動化
廃棄物	産業廃棄物の削減	①廃棄物の分別の徹底 ②資材の過剰発注の防止
水使用量	節水	①井戸水・雨水の利用 ②節水啓発ポスターの掲示
化学物質	化学物質の適正使用量の徹底	①使用材料の調査を行う ②BT剤（微生物農薬）等を導入する ③残液のないよう必要量だけ調合する
組織本来の取組	剪定・除草ゴミの再資源化	①剪定・除草ゴミの再資源化の徹底 ②堆肥化、及び堆肥の地域住民への配布を検討

6. 環境経営目標の実績

【短期目的・目標・実績】

○取組期間 2023年1月 ～ 2023年12月

○全体

目的	単位	※1 基準	目標 2023年度	実績 2023年度	目標対比 (%)	評価
二酸化炭素の削減 ※2	kg-CO2	96,730	96,246	97,959	2%増加	×
エネルギー使用量の削減	電気使用量	kWh	13,590	13,522	2%削減	○
	ガソリン使用量	L	13,281	13,215	0.6%削減	○
	軽油使用量	L	22,486	22,374	3%増加	×
	灯油使用量	L	296	295	3%増加	×
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	438	408	7%削減	○
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100	99		○
水総使用量の削減	m3	276	273	254	7%削減	○
剪定・除草ゴミの再資源化 (環境配慮の取組) ※4	%	100	100	100		○
地域社会への貢献	回	12	12	12		○

○事務所

目的	単位	※1 基準	目標 2023年度	実績 2023年度	目標対比 (%)	評価
電気使用量の削減	kWh	13,590	13,522	13,226	2%削減	○
ガソリン使用量の削減	L	3,351	3,334	2,677	20%削減	○
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	438	408	7%削減	○
水総使用量の削減	m3	258	256	253	1%削減	○
地域社会への貢献	回	12	12	12		○

○建設現場

目的	単位	※1 基準	目標 2023年度	実績 2023年度	目標対比 (%)	評価
ガソリン使用量の削減	kWh	9,930	9,881	10,465	6%増加	×
軽油使用量の削減	L	22,486	22,374	23,156	3%増加	×
灯油使用量の削減	kg	296	295	304	3%増加	×
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100	100		○
水総使用量の削減	m3	18	17	1	94%削減	○
剪定・除草ゴミの再資源化 (環境配慮の取組) ※4	%	100	100	100		○

全体的な環境目標は達成することができたが、工事量の増加により建設現場のエネルギー使用量が増加し、目標を達成することができなかった。

社員増員によりトラックが不足していたため、新たに低燃費・低排出ガス認定車を導入した。増車により軽油使用量が増加したが、移動時間や作業時間が短縮でき、作業の効率化を図ることができた。

今年度から所定休日の増加や、時間外労働の削減、有給休暇取得促進などの取り組みにより、事務所の電気使用量削減につながったように思う。

工事量増加により産業廃棄物排出量が増加したが、再資源化に努めている。当社が選択できる再資源化可能な委託先を100%選択できた。（廃プラスチックが埋立処分となり、再資源化率は99.4%となった。）

剪定・除草ゴミはリサイクル業者への持ち込みを継続し、再資源化の徹底に努めている。

7. 環境経営計画の取組結果とその評価

○事務所

○取組期間 2023年1月 ～ 2023年12月

		具体的な取組	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	評価
二酸化炭素	電気使用量の削減	①緑のカーテンの実施	－	○	○	－	○
		②冷暖房時にサーキュレーターや扇風機の併用	○	○	○	○	○
		③適正温度の維持	○	○	○	○	○
	ガソリン使用量の削減	①タイヤ空気圧の点検 ②余分な荷物を乗せない	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
廃棄物	一般廃棄物の削減	①両面印刷、裏紙再利用の徹底	○	○	○	○	○
		②ミスプリント防止のため事前確認の徹底	○	○	○	○	○
		③文書電子化	○	○	○	○	○
水使用量	節水	①雨水の利用	○	○	○	○	○
		②節水啓発ポスターの掲示	○	○	○	○	○
リサイクル	環境・社会貢献	①使用済みインクカートリッジの回収	○	○	○	○	○
		②ペットボトルキャップの回収	○	○	○	○	○
		③使用済み切手の回収	○	○	○	○	○
地域貢献	美化活動	①事務所周辺の清掃活動を実施	○	○	○	○	○

○：計画通り実施 △：一部出来なかった ×：出来ていない

○評価に対するコメントと次年度の取組内容

目的	評価に対するコメント・次年度の取組
二酸化炭素	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 今年も事務所南側にゴーヤの「緑のカーテン」を実施し、夏の厳しい日差しを遮り、適正温度の維持に努めた。 今年度から所定休日の増加や、時間外労働の削減、有給休暇取得促進の取り組みにより、事務所の電気使用量削減になり、二酸化炭素排出量の削減につながった。 また、タイヤ空気圧点検、荷物の軽量化、エコドライブを継続した。ガソリン使用量削減のため引き続き取り組んでいきたい。
廃棄物	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 両面印刷、裏紙再利用、ミスプリント防止のための事前確認など、社員全員に意識づけができたことで、コピー用紙使用量が減少した。また、包装紙や封筒などの紙類を再資源化することで可燃ごみが減少し、廃棄物削減につながった。 また、会議資料や通達書類など文書電子化によるペーパーレス化を継続し、コスト削減にもつなげていきたい。
水使用量	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 今年も雨水や室外機から出る排水をバケツに溜め、花の水やり利用するなど、水の再利用に努めた。 引き続き節水啓発ポスターの掲示で社員全員の節水意識を高めていきたい。
リサイクル	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 使用済みインクカートリッジ、ペットボトルキャップ、使用済み切手を回収し、それぞれリサイクル回収ボックスに定期的に持参している。今年は新たに髪の毛を再利用し医療用ウィッグを無償提供するヘアドネーション活動にも参加し、社会貢献に努めた。 引き続きゴミの分別、資源のリサイクル化を徹底して取り組んでいきたい。
地域社会への貢献	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 地元中学の職場体験学習や高校インターンシップなどを積極的に受け入れ、高校との連携授業に造園業として参加した。地域行事への協力として、少年少女野球大会、クロスカントリー大会に参加・協賛、奉仕活動や献血、植樹などのボランティア活動、事務所周辺の清掃活動を実施した。 次年度も地元根付いた社会貢献活動に積極的に取り組んでいきたい。

7. 環境経営計画の取組結果とその評価

○現場

○取組期間 2023年1月 ～ 2023年12月

		具体的な取組	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	評価
二酸化炭素	ガソリン・軽油の使用量の削減	①タイヤ空気圧の点検	○	○	○	○	○
		②重機使用時間短縮化の推進	○	○	○	○	○
		③車の乗り合わせ	○	○	○	○	○
		④機材の電動化	○	○	○	○	○
廃棄物	産業廃棄物の削減	①廃棄物の分別の徹底	○	○	○	○	○
		②資材の過剰発注の防止	○	○	○	○	○
水使用量	節水	①井戸水・雨水の利用	○	○	○	○	○
		②節水啓発ポスターの掲示	○	○	○	○	○
化学物質	化学物質の適正使用量の徹底	①使用材料の調査を行う	○	○	○	○	○
		②BT剤（微生物農薬）等を導入する	—	○	○	—	○
		③残液のないよう必要量だけ調合する	○	○	○	○	○
組織本来の取組	剪定・除草ゴミの再資源化	①剪定・除草ゴミの再資源化の徹底	○	○	○	○	○
		②堆肥化、及び堆肥の地域住民への配布を検討	—	—	—	—	—

○：計画通り実施 △：一部出来なかった ×：出来ていない —：該当なし

○評価に対するコメントと次年度の取組内容

目的	評価に対するコメント・次年度の取組
二酸化炭素	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 新たに排気ガスを出さない電動・充電式バッテリー機材を導入し、騒音を抑制し環境にやさしい機材を使用した。 また、人員増員によりトラックが不足していたため、新たに低燃費・低排出ガス認定車を購入した。 今後もタイヤの空気圧点検、重機使用時間短縮の推進など消費燃料削減に努める。
廃棄物	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 今年も廃棄物分別徹底の取り組みとして、2人1組1週間交代で行うゴミ収集当番制を継続して行っている。 社員全員が関わり、1人1人が意識して廃棄物分別の徹底に取り組んだ。 引き続き継続し、廃棄物分別や削減に努力する。
水使用量	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 今年も現場の水やりは地下水を使用することで、上水の使用量を抑えることができた。 次年度も可能な限り地下水を使用し、節水啓発ポスターの掲示を継続して行い、節水に努める。
化学物質	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 防除に使用する化学物質は、必要量だけを調合し残液を出さないことで、無駄な使用量を抑えることができた。 引き続き継続し、化学物質の適正使用量の徹底に努める。
剪定・除草ゴミの再資源化（組織本来の取組）	具体的な取り組みは計画通り実施できた。 今年もリサイクル業者への持ち込みを継続し、再資源化の徹底に努めている。 芝の堆肥化や薪作りに伐採した木を再利用するなど、資源の循環化を検討する。

7. 次年度環境経営目標

【中・長期目的・目標】

目的	単位	上段：目標値 下段：基準年対比			
		※1 基準	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素の削減 ※2	kg-CO2	96,730	96,246 0.5%削減	95,763 1%削減	95,279 1.5%削減
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	438 0.5%削減	436 1%削減	433 1.5%削減
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100	100	100
水総使用量の削減	m3	276	273 1%削減	270 2%削減	268 3%削減
剪定・除草ゴミの再資源化 ※4	%	100	100	100	100
地域社会への貢献	回	12	12	12	12

※1 2020年～2022年実績の平均値を基準値とした。

※2 電力のCO2発生量については、四国電力の調整後排出係数0.527（kg-CO2/kWh）を使用した。
（四国電力公表2021年度実績に基づく）

※3 産業廃棄物排出量については工事量の変化により、削減目標設定が困難のため、再資源化を目標とする。
当社が選択できる再資源化可能な委託先を100%選択する。

※4 剪定・除草ゴミは、リサイクル業者に委託し再資源化を行う。
化学物質の適正使用量の徹底

【短期目的・目標】

○取組期間 2024年1月 ～ 2024年12月

○全体

目的	単位	※1 基準	目標 2024年度
二酸化炭素の削減 ※2	kg-CO2	96,730	95,763
エネルギー使用量の削減	電気使用量	kWh	13,590
	ガソリン使用量	L	13,281
	軽油使用量	L	22,486
	灯油使用量	L	296
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	436
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100
水総使用量の削減	m3	276	270
剪定・除草ゴミの再資源化 (環境配慮の取組) ※4	%	100	100
地域社会への貢献	回	12	12

○事務所

目的	単位	※1 基準	目標 2024年度
電気使用量の削減	kWh	13,590	13,454
ガソリン使用量の削減	L	3,351	3,317
一般廃棄物排出量の削減	kg	440	436
水総使用量の削減	m3	258	253
地域社会への貢献	回	12	12

○建設現場

目的	単位	※1 基準	目標 2024年度
ガソリン使用量の削減	L	9,930	9,831
軽油使用量の削減	L	22,486	22,261
灯油使用量の削減	L	296	293
産業廃棄物排出量の再資源化 ※3	%	100	100
水総使用量の削減	m3	18	17
剪定・除草ゴミの再資源化 (環境配慮の取組) ※4	%	100	100

7. 次年度環境経営計画

○事務所

○取組期間 2024年1月 ～ 2024年12月

		具体的な取組
二酸化炭素	電気使用量の削減	①冷暖房使用時サーキュレーターや扇風機の併用 ②適正温度の維持
	ガソリン使用量の削減	①タイヤ空気圧の点検 ②余分な荷物を乗せない
廃棄物	一般廃棄物の削減	①両面印刷、裏紙再利用の徹底 ②ミスプリント防止のため事前確認の徹底 ③文書電子化
水使用量	節水	①雨水の利用 ②節水啓発ポスターの掲示
リサイクル	環境・社会貢献	①使用済みインクカートリッジの回収 ②ペットボトルキャップの回収 ③使用済み切手の回収
地域貢献	美化活動	①事務所周辺の清掃活動を実施

○現場

○取組期間 2024年1月 ～ 2024年12月

		具体的な取組
二酸化炭素	ガソリン・軽油の使用量の削減	①タイヤ空気圧の点検 ②重機使用時間短縮化の推進 ③車の乗り合わせ ④機材の電動化
廃棄物	産業廃棄物の削減	①廃棄物の分別の徹底 ②資材の過剰発注の防止
水使用量	節水	①井戸水・雨水の利用 ②節水啓発ポスターの掲示
化学物質	化学物質の適正使用量の徹底	①使用材料の調査を行う ②BT剤（微生物農薬）等を導入する ③残液のないよう必要量だけ調合する
組織本来の取組	剪定・除草ゴミの再資源化	①剪定・除草ゴミの再資源化の徹底 ②堆肥化、及び堆肥の地域住民への配布を検討

8. 環境法規制等遵守 チェックの確認及び違反、訴訟等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守チェック結果
廃棄物処理・リサイクル		
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の適正な分別、保管、収集、運搬、処分	遵 守
	産業廃棄物の投棄禁止、焼却禁止	遵 守
	産業廃棄物の委託処理、マニフェストの交付、保管	遵 守
リサイクル法	建設副産物の発生抑制、再利用、再生利用、再資源化努力	遵 守
建設リサイクル法	特定建設資材の分別解体、再資源化の促進、再生資源の使用	遵 守
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	遵 守
	下請負人に対する元請業者の指導	遵 守
自動車リサイクル法	廃自動車の適正処理	遵 守
家電リサイクル法	対象4品目の廃家電の適正処理	遵 守
小型家電リサイクル法	対象28品目の廃家電の適正処理	遵 守
資源有効利用促進法	資源の有効利用の促進	遵 守
大 気 汚 染		
オフロード法	特定特殊自動車使用者の責務、使用の制限	遵 守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の適切な設置と簡易点検の実施	遵 守
	フロン類の漏えい時の措置、機器廃棄時のフロン回収	遵 守
大気汚染防止法	排出基準の遵守義務	遵 守
悪臭防止法	規制基準の遵守義務	遵 守
騒 音 ・ 振 動		
騒音規制法	特定建設作業の事前届出、規制基準の遵守	遵 守
振動規制法	特定建設作業の事前届出、規制基準の遵守	遵 守
水 質 汚 濁 （排 水）・土 壌 汚 染		
水質汚濁防止法	排出基準の遵守義務	遵 守
下水道法	公共下水道への排水基準の遵守	遵 守
浄化槽法	浄化槽保守管理、定期検査	遵 守
	浄化槽からの廃棄物の排出	遵 守
PRTR法	第1種指定化学物質の適正管理	遵 守
農業取締法	農業の使用者の責務、使用規制	遵 守
そ の 他 関 連 法 令		
消防法（危政令）	火気の使用に関する規制	遵 守
労働安全衛生法	労働災害発生の防止	遵 守
	危険物及び有害物に関する規制	遵 守
	労働者就業に当たっての措置	遵 守
香川県環境基本条例	公害防止等の規制	遵 守
高松市環境基本条例	公害防止等の規制	遵 守

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

エコアクション21の取り組みも今年で9年目になり、日常の相互の声掛けや担当社員を中心とした全体会議での周知、注意喚起表示の工夫などの努力により、各社員の理解度や協力度が年々深まっていることを実感している。

今年度は、完工高昨年度比106%という結果となり、ガソリンや軽油等のエネルギー消費量も増加傾向ではあるが、酷暑や厳寒下での屋外作業における社員の健康管理のための温度調節等に係る燃料使用量はやむを得ず、それ以外の業務全体としては削減ができており、現状ますますと評価している。

来年度は、現在の環境経営方針や実施体制の継続とともに、中・長期目標における環境経営目標に向け、若手社員の自由で活発な発想による新しい活動を環境経営計画の策定に積極的に取り入れたいと考えている。また、6月には東讃営業所の新社屋への移転が控えており、この機会に改めて社員全員の環境に対する意識が高まり、一人ひとりが更に自主性や責任を持ってエコアクション21の活動に取り組んでくれるよう期待をしている。

2024年1月30日

緑造園興業株式会社

代表取締役 植原 成典

10. 具体的取組内容

●消費電力量の削減に向けた取組●

（緑のカーテン設置）



今年も建物の南側にゴーヤの緑のカーテン設置を継続した。2階まで大きく成長した緑のカーテンが、厳しい夏の日差しを遮り、室内の温度上昇を抑制した。



（事務所南側）



（収穫物）

（冷却ベスト・防寒着支給）



夏場の作業が少しでも涼しく快適になるよう、冷却ホース内の冷水で身体を冷やす冷却ベストを支給した。作業の効率アップや熱中症予防としても効果があった。



冬場の厳しい寒さを少しでも緩和するために、軽量で保温性と透湿性に優れた防水防寒ジャケットとパンツを支給した。軽くて暖かい防寒着は、寒さの厳しい冬場での作業軽減に効果があった。



（年間休日数増加）



2023年1月より、就業規則を改訂し年間休日数を12日増やした。休日増加により事務所消費電力量は削減になった。また休日数が増えたことで、社員の心身リフレッシュによるモチベーション向上にもつながった。

●消費燃料の削減に向けた取組●

（社用車導入）



新たに低燃費・低排出ガス認定車を購入し、人員増員のため不足していたトラックを増車することで、移動時間や作業時間短縮につながり、作業の効率化を図ることができた。



（電動・充電式機材導入）



新たに電動・充電式バッテリーの草刈機と生垣バリカンを購入した。排気ガスが出ない充電式バッテリー機材を使用することで環境にもやさしく騒音をおさえることができ、消費燃料削減に努めた。



●社会貢献に関する取組●

(ヘアドネーション活動参加)



「寄付された髪の毛で医療用のウィッグを作り、小児がんや事故、脱毛症などで髪を失った18歳以下の子どもたちに医療用ウィッグを無償提供する活動」に、当社社員2名が参加した。



●地域貢献への取組●

(職場体験・インターンシップの受け入れ)



当社では、地域貢献・次世代育成の一環として地元中学職場体験学習、高校インターンシップなどの受け入れを積極的に行い、技術・技能を学ぶ場を提供した。



(高校との連携授業参加)



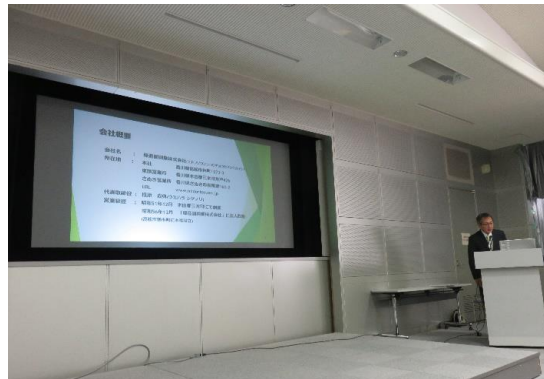
近隣の農業高等学校の生徒を対象に行われた、「農業者と高校生との交流・意見交換を行い現場や経営への理解を深める連携授業」に造園業者として参加した。



(高年齢者雇用推進セミナー参加)



少子高齢化により、働く意欲がある高年齢者がその能力を十分に発揮できる環境の整備を目的とするセミナーに、高年齢者を戦力化している事例企業として発表した。



◆◆◆ 事業所紹介・事例発表 ◆◆◆

緑造園興業株式会社 様

昭和51年に造園業からスタート。その後、建設業許可を取得して街路樹や公共施設の樹木の剪定・管理、土木工事にも参入し、現在では特殊な工事も行っています。さぬき市総合運動公園の指定管理者業務もっており、高齢者も活躍できるように職域開発を図っています。

(SDG s 研修会参加)



高松市一般廃棄物処理業者講習会と年金委員・健康保険委員香川県研修会に担当社員が参加した。
香川県政策部より、県内企業の取り組み事例の紹介や「かがわ地方創生SDG s 登録制度」の説明を聞くことで、今後の活動への参考とすることができた。



小学生がSDG sに触れ、関心を持ち、考えるきっかけとして開催された香川銀行・高松信用金庫主催の夏休み「かがわアライアンス子どもSDG s 教室」に社員の家族が参加し、SDG sの説明とミニ黒松作りを体験した。



（地域貢献活動・イベントボランティア活動）



地域行事への協力として、少年少女野球大会、クロスカントリー大会に参加・協賛した。

また、献血や植樹などボランティア活動、近隣清掃など地域に根ざした社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。



（少年少女野球大会）



（献血活動・記念植樹）



（クロスカントリー大会参加）



（近隣清掃活動）



（事務所ゴミ収集当番）

●働きやすい環境づくり●

（産後パパ育休導入）



当社は、令和4年10月育児・介護休業改正に伴い就業規則を改訂し、「産後パパ育休」を新設した。今年、男性社員1名が5月から、28日間取得した。子育ての大変な時期に夫婦で協力して子育てすることに活用でき、子育て世代の若い社員にも働きやすい環境を整えることができた。

